

第3回 高原地区街づくり協議会 議事録（要旨）	
開催日時	平成27年1月22日（木）14：00～15：45
開催場所	市役所4階 特別会議室
出席委員	14名
欠席委員	辻沢委員、小野原委員、菅野委員
事務局	吉川市長公室次長、石原総合政策課長補佐、吉本主査、色雲主査、島田主事（関係課）農林課・林課長、産業競争力強化室・南室長
決定事項	(1) 委員より、空き家事業につき、実施時期や実施にあたっての課題等を求める。 (2) 事務局は、産品づくりの組織体制・外部専門家の活用策等を検討する。 (3) 第4回会議に、民泊モデル体験事業の実施体制や保険関係などの留意事項について提示する。
議事内容	
<p>1. 開 会 -14：00-</p> <p>2. 市長挨拶</p> <p>今回で3回目となるが、今般福住校区で区長様3名が交代された。今年の干支となるひつじの「未」は未来の「未」と考える。先日より地方創生が重視されているなか、3月補正予算、来年度は総合戦略を策定する。地方創生でも中山間部の取り組みが挙げられるなか、現プロジェクト案は先行する形で議論しており、天理市における地方創生に資するものとして他の協議会ともつながっていく。この場から地方創生が始まると考え、良い御審議をいただきたい。</p> <p>3. 委嘱状の交付</p> <p>福住校区区長会で会長等の交代に伴う新委員紹介後、委員を代表して中谷委員に委嘱状を交付した。</p> <p>4. 議 事</p> <p>(1) 高原地区活性化プロジェクト・事業一覧について</p> <p>委 員</p> <p>これまでの議論を6事業に整理した。各事業を確認のうえ、来年度以降に短期・中長期的取組としていきたい。1頁目下部にある「小さな拠点」は、集落地域における新たな取り組みとなる基本的な方向性が挙げられている。3月補正予算、来年度予算はこの考え方に関連づけていくことになるため、認識しながら議論していきたい。また、別冊資料「都市農村共生・対流総合対策交付金」は、各省庁の補助金等を組み合わせたものである。横目でみながら進めていただければと思う。</p>	

(2) 具体事業構想

それでは、1つ目の事業「空き家利活用推進事業」に検討するが、2頁目・共通認識はすでに理解されていると思われるため、課題整理に着目されたい。阻害要因があるために空き家活用が進んでこなかった状況のなか、具体的な事業を提案したい。事務局から説明願いたい。

事務局

3頁・空き家利活用の効果として、関係4者における共通効果を挙げつつ、4頁・用途事例のうち、高原地区における展開として住居系施設としての活用を提案する。活用できる可能性のある空き屋として、区長会より計6軒ご提示いただいております、6頁・事業提案においても総合戦略と関連させていきたい。

委員

用途事例は、旧福住幼稚園利活用とも重複するものの、空き家利活用策としては定住を促していく。やはり、小学校を維持していくためには切実な課題と認識している。27年度には課題整理を行いながら、28年度に向けて取り組んでいかれたい。

さて、利用者の想定としては、天理大学生を見込んでいるのか。

事務局

はい。これまでの協議会においても、岡田委員及び池田委員よりゼミ合宿、スポーツ合宿として利用する提案がありました。

委員

留学生が利用する案もあったと思う。まずは一步踏み出すことが大事だと思う。

委員

提示された空き家は、すぐにでも入居できる状態なのか。また、所有者の了解は得ているのか。

事務局

現段階では、活用可能性のある空き家としてご提示いただいた段階であり、所有者様への説明及び室内調査はこれから進めるところである。モニターハウス利用者として、天理大学様を想定している。

委員

提案されたとおり全てことが運ぶことは難しいかもしれないが、まずは一步を踏み出すこと

が大事だと考える。実施時期や実施にあたっての課題等をご意見いただきたい。

事務局

室内を実施調査した段階ではなく、可能性のある空き家として挙げて頂いたものであり、これから区長様らの御協力をいただきながら進めていきたい。

委員

(平日・休祝日時の)居住の有無や電気・水道等の基礎インフラ状況等は今後に調査しないといけませんが、本日は利用できるとの前提で話を進めていく。空き家を単に自由に使ってください(読書で過ごすなど)という形ではなく、校区での受け入れなどと連動しながら促進する必要があると考える。農作業と併せながら、ということ。

利活用する側も受け入れ側も双方ともはじめてという形になるうが、コーディネート方法等の知見を得られればよいと思う。

委員

空き家の利活用としてどのように地域の方々への支援をしていければよいのかを考えたい。

また、コーディネーターへのつなぎも必要あればご協力させていただく。先日、市の協力を得て空き家相談会を開催したところ、一定のニーズはあると認識している。国の施策では、農業希望者に対して新築資金を補助する動向のなか、高原地区は目玉となりうる。催しで使うことや定住策として活用することもあるが、主産業と併存させていければよい。

委員

受け入れにあたり、食器や蒲団等の什器整備は考える予定である。

委員

私が受け持つ学部では地域貢献型の授業があり、他の文学部・国際学部へ地域貢献する取組を声掛けしている。授業において、学生と住民の方々が協議しながら活用策を立案するようになりたい。

委員

28年度の本格実施に向けて、多種多様な類型を提案していただければよいと思う。グループごとに切り口を変えて試されてはどうか。事務局と相談しながら進めていただきたい。そのような機会を与えていただけることはありがたい。大学90周年記念としても活用いただければと思う。

委員

現在、社会貢献活動授業を受けているが、高原地区での実活動は授業では習わないことを学べる良い機会となる。

委員

地域のみなさんによる農業指導などの受入れはいかがでしょうか。

委員

合宿する場合に、学生を受け入れるお食事はどうすればよいのか。

委員

空き家の状況によると考える。自炊することもあるだろうが、できる限り地域のみなさまとの交流機会を設けるように考えていきたい。

委員

街づくり協議会の認識が浸透していないと感じるなかで、各区長へ協力依頼をしても難しいのではないかなと思う。

委員

認知度を高めないといけないというご指摘はそのとおりであるが、広報紙を多量に発行するよりはひとつのプロジェクトを実施することのほうが(認知度を高めるためには)よいこともある。

委員

前任者より概要を引き継いだが、どのように活用するかまでは協議されていないと思う。

委員

まさに今年度・来年度に内容を詰めていくことになる。地域のみなさまへは、基本的に前向きな姿勢としてご協力いただければうれしい。

委員

近日中に区長会があるため、その場で空き家取組に係る趣旨を説明したい。

委員

(区長会での説明も大事だが)それほど難しく考えなくてもよい。学生にとっては、はじめての地域であるため、地域で活動してどのような感覚を持ったのかをみなさんが聴かれることで刺激

にもなる。それを繰り返す(ことで次につながる)。

委員

それがきっかけになればよいと思う。

委員

空き家を貸した場合における安全管理・事故補償などについては、行政が責任を持っていただけののか。

事務局

最終的な契約締結者は、所有者様と利活用者になる(ことを理解いただきたい)。物件の破損・人体への損傷等については保険対応を考えている。それらについては整理したい。

委員

空き家コンシェルジュでも保険対応をしている。

委員

では、次の議題である産品づくり推進事業に進めたい。地域の魅力づくり・観光づくりへつながる。組織体制等も検討していきたい。

事務局

成功事例として、徳島県の葉っぱビジネスを例示している。地域産品導入の手順として、8段階のプロセスを経ているが、本協議会では2段階目まで進んだと認識している。今後、生産・加工・販売のステップを経る場合にどこまでを対象とするのかにつきご協議願いたい。

委員

例えば、ほおずきジャムはすでに販売されているため広報PRを強化するのか、または一から進める商品をつくるのかということ。ここで挙げられた葉っぱビジネスの成功例と同様のプロセスに沿って活動することは難しいと思っている。

イベント時にだけ商品を提供する方法もあるし、高原地区では原材料を供給する役割となり、駅前本通り商店街等で加工・商品開発をするという連携方法も考えられる。

国の補正予算でも産品開発が挙げられているなか、料理人・シェフ等の外部専門家による開発支援に要する経費を総合戦略項目として挙げられればとの思いを抱いている。やはり、地域の人員で生産体制を担うことは難しいのではないかなと懸念する。一方、加工に意欲あれば遊休施設へ加工機能を設けることや公民館での調理室整備をすることも考えたい。ただ、生産人

員の確保は行政側では難しいかな。

委員

今回展開する方式を列挙していないため、次回に提示できるようにされたい。原材料供給型、商品加工・開発型、既成品付加価値型などである。購入したことをきっかけに高原を知ってもらいたい。

委員

強みを活かしていくのであれば、お米を活かすことがよい。

委員

販路は定かでないが、先人らは割木を売っていた。だが、我々は必要なときに現金化する知恵がない。生産・加工はすぐにでもできるため、販路開拓の知恵をいただきたい。

委員

家庭で消費するのではないため、商品販売となるならば衛生管理について慎重な対応が必要になると思う。

委員

加工施設は全国に多数存在するため、原材料だけ提供するだけでもよいのでは。ただ、雇用を目的として加工も地域で行うとなれば、一定のリスクを考えないといけないかな。

委員

加工・販売まで行うとなればしっかりと注力する形となる。他の協議会とも相談することになるが、福住産品をしっかりと活用してくれる事業者へつなぎ、発信する。もちろん、高原地区内で事業者があり商品力を高めるとなれば補助する案も出てくるだろう。

委員

大学では、生活と経営という授業において、市内の素材を用いて事業者と連携した商品化した。反応を見たうえで定番商品化としたい。

委員

外部専門家の活用など事務局で整理されたい。

では、次の旧福住幼稚園・山田公民館利活用事業を協議したい。地方創生事業（小さな拠点形成関連事業）と関連して3月補正予算に計上できればよいと考える事業である。

それでは、何に使うのか(求める機能)についてであるが、資料整理した事務局にお尋ねする。

事務局

山田公民館では、新たなイベント発案や用途自体を変更する抜本的なアイデアもいただいている。旧幼稚園では、地域の活性化として利用する案（イベント、住民交流、加工施設など）が多く見受けられる。

委員

山田公民館における利用頻度・割合はどの程度でしょうか。また、趣のある外観を活かすために改善したい箇所、あるいは、園庭は土の状態を維持されているためこうすれば地域の拠点として生きてくる、陳列するためにこうすれば良いのにといい意見はあるか。

委員

数年前に合宿をされた際はお風呂の課題があったため、シャワー設備があれば良いのでは。グラウンドはテントを張ればキャンプもできるが、お風呂を求める声が多い。

委員

他にこの設備等があれば有効に使えるという案を提案いただきたい。

委員

旧幼稚園でも、シャワー設備が必要と考える。園児用に手洗い場などがあるがボイラー設備によりお湯が使用できるようになればよい。蒔ストーブや事務所としての机もあればよい。

委員

幼稚園の外装と調和するような木目調の備品はどうか。

委員

蒔を使う案は良い。蒔を使わないから里山が荒れると思う。旧幼稚園に蒔ストーブを設置し、みんなで囲む・・・良い雰囲気想像できる。

委員

意見集約時期として、(予算要求時期を考慮し)1月末までにいただければありがたい。なお、このように実現したいので、この設備をつけたいという形とされたい。趣旨に沿うかどうかは24頁以下を参照いただきたい。

(3) 民泊モデル体験事業

委員

空き家利活用推進事業と類似する民泊モデル体験事業について事務局より説明願いたい。

事務局

従前から民泊について話題提示したことがあるが、制度概要を説明していなかったため、改めて概要を提示する。資料は明日香村の取り組み（民家ステイと表現されている）であり、受入世帯の職業や受け入れ時の活動内容を挙げている。

委員

同事業については次回、実施体制や留意事項について説明することとされたい。

委員

また、プロジェクトのひとつである農業法人誘致事業を含めた企業誘致もインター付近で求めていきたいと考えるが、農業法人については(必要規模として)5反以上あれば可能だと聞いている。環境を破壊することなく雇用確保できる点でよいと考える。

委員

地元話を広げようと思っても、何を生産・栽培する企業なのかを明らかにしてもらいたい。

委員

これまでお話をいただいたなかでは、高い標高を利用した高原野菜や他の作物などが挙げられる。収益性も高いと聞いている。

委員

やむなく農業を継続しておられる農家がおられるなか、良い企業であれば、農家も受け入れると思う。福住では、新たなことを行うよりも昔からの伝統を復活（かきもちなど）することが大事だと考える。先人はそれらを子孫に伝えてきた。

委員

もちろん、伝統を継承することは大切である。それと同時に懸念していることは、10年後に風情が守られているのかということ。天理に是が非でも来たい企業は稀であると思われるなか、積極的に誘致しなければいけないと思う。

事務局

他のプロジェクト案である酒米作付けプロジェクトについて市本委員よりご説明願いたい。

委 員

同プロジェクトは、私が理事をしている大和ブランド推進協議会からの提案であり、2月中に地域のみなさまへご説明する機会を得たい。

委 員

収益の高い酒米への転換を提案するという趣旨と理解する。事務局でも、支援できることは支援されたい。

会 長

それでは、すべての議事を協議したので整理をしたい。

空き家利活用推進事業は、天理大学様に御協力頂きながら、来年度に向けて地元のみなさまへ御相談していきたい。

産品づくり推進事業につき、原材料をしっかりと活かして、福住が前に出るような形で他の協議会と連携を模索していきたい。イベント等を通じた加工・販売も充実していきたい。酒米作付けプロジェクトも同様の考え方である。

幼稚園・公民館につき、必要な設備のご示唆をいただければありがたい。

議論している事業は、地方創生のメニューとして全国の自治体が生き残りを懸けている事業でもあると理解している。すべて同時期に実行するとは思わないが、着実に進めていきたい。

5. 次回の日程と主な協議内容

次回・第4回会議は、3月下旬から4月初旬を目途として開催することを伝えた。

6. 閉 会 ー15:50ー

以 上